

1 自治体SDGs推進のための有識者検討会（第2回） 議事要旨

2
3 日 時：平成29年7月7日（金）13:00～15:00

4 場 所：永田町合同庁舎7階 特別会議室

5 出席委員：村上座長、秋山委員、浅見委員、蟹江委員、城山委員、関委員、竹本委員、藤
6 田委員7
8 ◎議論

9 ・ステークホルダーヒアリング（横浜市・北九州市）

10 ・自治体SDGs推進のための論点整理について
1112
13 【委員からの意見等】14 1. ステークホルダーヒアリング（横浜市）
1516 ○ スライド15番だが、定例会議でも、「SDGs」という言葉を横浜市では入れられ
17 て市政を進めているということか。
18

19 【横浜市】

20 ○ 29年度予算案を審議する議会での市長の最初のコミットメントの中にもこのSDG
21 sという言葉が入っており、議会にも説明させていただいている。特に世界平和に関し
22 て、SDGsに関連していくつかご質問が出ており、市長や国際局が答弁をしている。
2324 ○ 前回この会議でも議論になったが、17のSDGsのゴールは全てが各自治体に適用
25 されるわけではなく、恐らく選択的に選んでもらい、その中でも強化するべきエリア、
26 あるいは具体的な事業との関連性ということを各自治体に議論もらう、そんなことがこ
27 の前のこの会議であったのだが、横浜市として具体的にその17ゴールのうち、こうい
28 うところにフォーカスを当てるとか、あるいは、未来都市が全て終わっている事業を全
29 てひも付けるなど、幾つか具体的に計画としてお考えのところがあれば、可能性も含め
30 て紹介して欲しい。31 ○ 自治体としてSDGsにどう取り組んでいくのかということは、横浜市の中の議論で
32 も、最終的にまだまとまりきったわけではないが、17のゴール全部を目指すというよ
33 りは、やはり得意分野を集中的にやっていった方がいいだろうといった議論がだんだん
34 多くなってきていると思う。35 ○ 17の目標のゴールの達成ということを考えると、やはり目標それぞれについての○
36 ×式になって、どこができていないかという話になる。環境未来都市では、得意分野に
37 ついて、企業や市民の皆様とスクラムを組んで取り組んできており、できたできないと
38 いうことよりも、そこで何が生み出されたかが大事だと思う。海外に向けて展開を考え
39 ると、17の中のこの目標についてはこの取組の中でやっているという方が、海外の都
40 市への説明には非常に有効ではないかと考えているが、自治体の施策を見る際に17の

1 項目のどことどこができたできないというやり方をとるのは、どうかという意見がある
2 という状況である。

3 ○ SDG sは概念的に皆さんに理解を頂くのがとても難しいと思う。特に市役所が主導
4 するので、最終的には市民の方々、一人ひとりが動いていかなければいけないと思うの
5 で、その部分でどのように市民に分かりやすく説明しているのか聞きたい。

6 ○ やはり財源確保がとても重要ではないかと思うので、その辺の工夫があれば、併せて
7 聞きたい。

9 【横浜市】

10 ○ 市役所の内部でもようやく勉強会が始まった段階で、まだ市民の皆様への周知をどう
11 していくかを内部で検討している段階である。企業や自治体が参加する勉強会やワーキ
12 ンググループは何回か開催しているが、まだそこまで、市民の皆様向けのフォーラム
13 の開催などはまだやっていないという状況である。

14 ○ 委員の発言のように財源は非常に重要である。色々な分野で、各部局が頑張って環境
15 未来都市の取組を進めているが、SDG sを進めていくには、国とも連携しながらやる
16 必要があると考えている。SDG sの取組を進めるために横浜市として予算を幾ら付け
17 る、この分野で特に幾ら増やすというところまでは、議論できていないという状況であ
18 る。

19
20 ○ 最初に、議会や議員からも色々意見が出たという話があったが、横浜市の場合では市
21 会議員の方が既にSDG sに関心を持っているということか。

23 【横浜市】

24 ○ 議会では世界平和に関する質問が多く、17の項目にどのように横浜市で取り組んで
25 いくかというよりも、横浜市が世界に貢献するためにSDG sをどう使っていくのかが、
26 議会の中の議論として活発に行われている状況である。

27
28 ○ スライドの16番で「環境未来都市のさらなる推進・進化」とあるが、これは、この
29 SDG sの今後の推進を今このスライド16番と重ねて理解していいのか。この16番
30 は15番のスライドと無関係であるのか、15番の延長であるのか。

32 【横浜市】

33 ○ 横浜市が、地域の人脈や気候風土、港や郊外の緑など地域の特徴を生かして、環境未
34 来都市としてイノベーションを起こしていくことが、結果的に海外に展開していくとき
35 にブランド力になるのではないかと思っている。

36 ○ まず横浜市としてきちんと今やるべきこと、それからチャレンジしていくべきこと、
37 市民や企業の方とどこでスクラムを組んでいくかということ、将来の都市像に向けて
38 考えていかなければいけない。それでも横浜市が地方創生のような形で、うまく展開し
39 ていけば、それが結果的に海外に展開するときに役立ってくるだろうし、また、今まで
40 横浜市が扱ってきた、ベーシックな環境問題、海外の特に東南アジアでは下水や水道な

1 ども、本当にそういうベーシックなインフラ問題にかなり関心がある。横浜市が得意なと
2 ころと、ベーシックに今まで地道にやってきたこと、海外都市の関心が深いところを併
3 せて展開できるのではないかと考えている。

6 2. ステークホルダーヒアリング（北九州市）

- 7
- 8 ○ 今後の取組についてだが、横浜市も北九州市も非常に大きなまちで、今、目の前の問
9 題として人口減少ということは大きな懸念ではないかと思う。しかし、北九州市はもう
10 人口減少している。こういうことは人口減少の中で持続可能なまち、そして皆が健康で
11 快適に過ごせるまちをつくるかという、その視点がすごく重要で、それは日本が世界の
12 先進国だと思う。従って、非常に大きな貢献ができるのではないか。
- 13 ○ 昨年、ドイツの連邦政府の、日本でいう人口問題研究所が、Shrinking Society とい
14 うシンポジウムが開催され、ドイツ、イタリア、スイス、スウェーデン、それから中国、
15 日本などが参加した。だから、Shrinking Society というのはもうグローバルなイシュー
16 であって、国全体として人口が減少して、それがまずグローバルということもあるが、
17 国の中で、都市の方に集中して人口が減少しているというところはもう世界中どこでも
18 ある。そういう中で、どのようにして持続可能な都市や町、生活環境を作っていくかとい
19 うことを、やはり日本としては、私は真剣に取り組んでいかなければいけないのでは
20 ないかと思っている。
- 21 ○ そのときに地域資源をいかに本当に有効に効率的にうまく使うかというのは、環境未
22 来都市から非常に多くのものが学べると思う。特に被災地など、あの辺りの環境未来都
23 市では、もともと少なかった資源をますます震災で失って、限られた資源を有効に使っ
24 ていかにしてまちをつくるか、色々なノウハウを蓄積している。そのコーディネート力
25 である。
- 26 ○ 人口減少というのは、ある意味で高齢社会もそうなのだが、イノベーションの宝庫だ
27 と思う。だから、人だけでやるのではなく、テクノロジーをうまく開発してそれを使っ
28 ていくという方向でも、ぜひ日本がリードできたらと思う。
- 29 ○ 横浜はまだ人口が増えているから全然切迫感がないと思うが、北九州市はかなり真剣
30 ではないか。

31 【北九州市】

- 32
- 33 ○ いろいろな面で日本の30年か40年先を行ったまちであり、北九州市が成功するか
34 どうかは皆さんにもご関心があるのではないかと思うが、人口問題は簡単に解決できる
35 ものではない。
- 36 ○ われわれ行政としては、人口を増やすことに最後まで取り組まねばならないが、一方
37 で委員のご発言のように、例えば人口が今の80%になって、高齢化率が40%になっ
38 たときに、都市をどのように維持すべきかというのを今のうちから考えるのも行政の仕
39 事だと思っている。そのためにもこの環境未来都市は非常にいい機会になったと思っ
40 ているし、SDGsもそういう機会にしたいと思っている。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

- 17の中に人口減少や高齢化というのほどかに入っているか。
- 高齢化はない。人口減少もない。
- これからゴールはこれにしても、ターゲットはどんどん日本から提案、あるいはインジケーターなどで提案すべき責務があるかもしれない、日本として。
- 客観的に見て、人口の高齢化というのは本当にグローバルである。それで、今までは先進国の問題だったのだが、今は例えばバングラデシュやアフリカの国々においても、死亡原因の上位に慢性疾患がどんどん出てきているということが、そこは人口高齢化しているということなので、早かれ遅かれ日本と同じような状況になると思う。だから、それは、やはり日本がある意味では先進国であるので、その課題を解決するという道筋を示すことができたらと思う。
- 高齢化と人口減少社会の中で、いかに Sustainable Development の計画を作るかということである。
- SDGs と環境未来都市の同じ取組の中で、先ほど発言があったように、色々な意味で、地域が自分たちの現状を知って、自分たちがまちづくりをしていく主体が、自治体だけではなく、まさに自治会という一つの組織が出ましたが、やはり市民一人ひとりが築いていくということがとても重要である。
- 北九州市がSDGs、環境未来都市というきっかけをもって自治会に働き掛けて、自治会が自らがこの高齢化の問題に取り組むということが日本らしいSDGsの取組方であり、必ずしも発展をするということではなく、今の資源なり現状を見据えた上で、自分たちがその地域の決定をしていくというプロセス自体にこのSDGsという考え方を入らせていただいたということで、とてもいいヒントになったのではないかな。
- 既に何かマニュアルを作っているということがあるので、それをぜひ色々なところに広げていただきたい。
- 前回の会合でも発言したが、全体構想の中で国の役割というものをもう少し、やはりどこかの段階で明確に頂きたい。2000年からの地方分権の流れの中で、ほとんどのものが自治体にどうぞと言われているが、では全体的な方向性というものと、先ほど来予算の話が出てくるが、やるにしても、今の交付税だけの財源だけでさまざまな新しい課題に対応するということは、自治体はやはりかなり厳しいと思う。その中で、北九州市が幾つかの補助金によってかなりの現実的なものができて、それがきっかけで、変な言い方だが官民連携で民間からの投資が始まるということは、国の税金の良い生かし方だと思う。
- 先ほどのカネの話、組織の話で、われわれは環境未来都市の委員として、やはり縦割りになっているところをどうやって横つなぎにしていくのかということの中で、環境未来都市の内閣府あるいは有識者委員の力をお使いいただいた場合もあるように思っている。この中で、北九州市の話は、幹部会も含めて横断的に、しかも組織に串が刺せるというように拝見したが、ただ一方でやはり組織的には、環境局の中に未来都市推進部があり、やはりそこは苦労があるような気がする。そのあたりの横串が、環境未来都市の横串は多分SDGsでも使えることになるように思うが、組織的な状況、あるいは工夫、あるいは悩みのようなものがもしあれば教えてほしい。

1
2 【北九州市】

- 3 ○ みんな新しいことはなかなかやりたがらないし、自分のところの仕事を他の部局に口
4 を出させたくないというのが一般的な話。一方で自治体は大統領制なので、首長が「こ
5 れをやる」と決めた以上は、上からの命令一下でやる。これが自治体の特色のひとつで
6 ある。
- 7 ○ 実際、北九州市で環境未来都市を担当しているのは企画調整局であり、環境局に未来
8 都市推進部という組織名はあるが、環境部門を中心に行っている。ただ環境未来都市の
9 中で環境部門は大きい。高齢化などを含めた最終的な取りまとめは企画調整局である。
10 一部で「事業はせずに、取りまとめだけする」とも言われている。これは役目だから仕
11 方がないと割り切って、怒られたり、文句を言われながらも進めている。
- 12
- 13 ○ ずっと見ていると、困っている自治体ほど横の局間の連携がいい。困っていない自治
14 体はいまだにこの局独立意識が強い。
- 15 ○ スライドの9番に、先ほどの国と自治体と民間の役割に関して明らかになっているの
16 かという質問があり、これまで特に地方自治体を中心にして、どうあるべきかと、そう
17 いうことを議論するのがここの集まりの目的である。まだこれは多分どこにもそれほど
18 明確に役割分担を示したものがないと思うので、ぜひここで色々な意見を頂いて明確に
19 していただきたい。
- 20 ○ どなたかに教えて欲しいのだが、このSDGsに関しては民間企業が割合早く取組ん
21 だ。しかも、CSR という形ではなく、企業の中期計画や何かに組み込んで、大きな企業
22 がその部局を設けるなど、そういうことをどんどん初めからやった、だからその辺の民
23 間の動きというのはどうなっているのか。
- 24 ○ 実は、大学で講義をしていて、最近の学生は就職するときに私のころと違って、ブラ
25 ンドでお給料が良いなどのところを必ずしも求めておらず、健康経営などの色々なこと、
26 このSDGsにあそこはこれだけ早く手を挙げたということを使う。それが企業のブラ
27 ンドにある程度なっているなど思っている。そのあたり、民間企業の動きについて、何
28 かそれは具体的に部局を設けたけれども、実際に何をやっているのかというのは、自分
29 のところはこの17の中のこれとこれをやりますよというようなものを引っ張ってき
30 て、下にレッテルを貼っているようなことを言っていたがどうか。
- 31 ○ 今の話については、次回のヒアリングで詳しい人に来てもらう予定である。
- 32 ○ 民間は特にESG投資などと絡んで、非常に熱心である。
- 33 ○ 今後の取組についてだが、これは横浜市にも関係するかもしれないが、割と今の延長
34 線上にあるところのような気がした。例えば、北九州でのSDGsを作るとか、多分色々
35 なことが実際にやっていくとしたらすごく関係してくると思う。例えば、貧困をなくそ
36 うというのもすごく深刻な問題だと思うのだが、2030年までに半減するなど、本気
37 で取り組もうと思ったらかかなり大変な話が色々含まれていると思う。その辺の課題をど
38 うやって実際の施策に入れようとしているのか、入れる計画があるのか、ひも付けよう
39 としているのか、聞かせて欲しい。
- 40

1 **【横浜市】**

- 2 ○ 貧困をどうするかという問題は個別の問題としてあるが、環境未来都市として、次の
3 計画をどうするか、横浜市の庁内で議論しているのは、環境・社会・経済というトリプ
4 ルボトムラインをどのように組み合わせて課題を解決していくかということ。例えば、
5 貧困だけではなくて、貧困プラス経済などを組み合わせて、それで何か解決できるとい
6 うことが議論の中で出てくれば、貧困への対応を入れ込んでいくということもある。
- 7 ○ 北九州市も言っているが、やはり環境未来都市であることで、各部局が横つなぎにな
8 れるような事業をぜひ選んでいきたい。どこかの部局が単独でやれる事業は総合計画に
9 役割を任せ、それぞれの部局が専属してやっていくという形で考えられればと思う。環
10 境未来都市としては、横つなぎの事業で特に何か新しいチャレンジ、イノベーションを
11 起こすような、横浜市ならではの事業を特に選んでいければと、今、庁内で議論し
12 ている最中である。

13
14 **【北九州市】**

- 15 ○ 北九州市では、SDGsを各局に示すときに、「今の取組みでもかなりの部分で対応可
16 能で大丈夫だから心配なくていいよ」ということを見せている。当然ながら、新しい
17 ものもやるべきだと思っている。
- 18 一方で、内部で勉強しているときに、「スーパーマンはいてもゼウスはいない」という
19 話が出た。つまり、万能でできる自治体はないので、この17の全部が一自治体ででき
20 ると思っていない。しかし、「うちの自治体はここがスーパーマンだ」というべき部分
21 があれば、そこでは貢献したい。それでもいいのではないのというような意見もある。と
22 はいえ、自分たちができることだけやって、あとは知らないよということでもない。
- 23 ○ 幹部会で意思確認が終わったので、今後、若手の課長を全部集めて本格的な勉強会や
24 ることになっている。その中で新たな事業や、今後必要になることをフォーカスしてい
25 こうとは思っている。
- 26
- 27 ○ 何かそのような、まさにモデル事業というか、多分それぞれの自治体で幾つか挙げら
28 れると思う。そういうところを後押ししていくようなことをやって、SDGsなので、
29 多分、他のところでも共通の課題があったら、それをスケールアップを段々していける
30 と思うので、その辺が手始めとしてはいいのではないか。
- 31 ○ 横浜市の発言にあったような貧困をなくすために、例えば、雇用をどこかで創出して、
32 それはクリーンなエネルギーのところで雇用を創出するなど、そういう幾つかの横断的
33 なことをモデルとしてやって、うまくいけばパッと広がっていくようなものがあるとす
34 ごくいいのではないか。

35
36
37 **3. 自治体SDGs推進のための論点整理について**

38
39 **(1) 「0 はじめに」についての議論**

- 1 ○ この「0 はじめに」の例の（2）は、未来都市ではこの環境と超高齢化ということ
2 が、その前の環境のモデルとしては、専ら低炭素ということがテーマだったのだが、そ
3 れに対して、これは特徴が、今回政府から、上の方から課題を出すよりも、自分で勉強
4 して自分の自治体の課題を探してくださいと、どちらかというとも17の中から選んでく
5 ださいというような位置付けだろうということを書いてあるかと思う。
- 6 ○ 北九州市の報告の6ページぐらいにあった、地域課題の見える化のようなことはすご
7 く大事なのかなと思う。多分これは未来都市のある種の遺産というか、よかったのは
8 色々な複数課題に同時対応できるような、ある種シナジーのあるようなプロジェクトを
9 動かしていくという、多分そういうことは色々な実験ができてきたと思う。
- 10 ○ ただ、それは一つのツールであり、結局何をやるべきかとなると、その自治体ごとに、
11 色々な地域ごとに課題があるので、多分それをちゃんと可視化するというのが一番やら
12 なければいけないことではないか。
- 13 ○ その後、それを当然自治体のプロジェクトでやることもあるが、むしろ民間ベースで
14 動く話もあるかもしれない。ということで言うと、この「0」のところで書いてある、
15 まさに地域特性を踏まえて、きちんと自らテーマを設定する。逆にテーマを設定するた
16 めのインフラとしては、先ほどの北九州市の報告にあったような、ある種の地域課題を
17 可視化するような情報などをどう整理して出すかと、その辺は多分色々な工夫があり得
18 るのだと思うが、そこは結構重要な要素なのだと言強調することはすごく大事なかなという
19 感じがした。
- 20 ○ やはり未来都市の成功は、目標が見える化して、市民と自治体と関連して連絡して共
21 有したというところにあると思う。
- 22 ○ How というか、どうすればいいのかというような話をちょっと入れておいた方がいい
23 のではないか。パッと見て、ちょっと後からの説明にもしかしたら出てくるのかもしれ
24 ないなと思ってちらっと見たが、あまりないような感じだった。
- 25 ○ どうアプローチすればいいか、どういうやり方のオプションがあるかなど、多分一番
26 分かりにくいというか、分からないのは、SDGs というのがあって、何か結び付きそ
27 うだけれど一体どうすればいいのかというところのような気がするので、それを織り込
28 んで書くということもできるかと思うし、あるいはどこかのセクションに作ってとい
29 のもあると思うが、どうするかというところが大事ではないかという気がする。
- 30 ○ 今の発言のHowのところに近いのだが、（2）で、17から自ら地域テーマを設定する
31 ということだが、例えば、北九州市、横浜市の話を見ると、明らかに17のうちの四つ
32 か五つぐらいは確実にこれまでの公害行政で完成しているところがあり、それがただS
33 DGs で認証された。SDGs で照らし合わせても非常に高い数字があるということで、
34 認証しながら、それ以外にエネルギーと気候変動対応などに、今まさに未来都市でチャ
35 レンジしている。何か二つの使い方があるような気がしており、あまり二つだけではい
36 けないと思うが、やはり日本の場合、SDGs はもう既に1～6についてはかなり達成
37 している自負があるだけに、ただその自負を、国際的にベリファイされるというような
38 形で使うということと、これから目標を作る。その二通りの使い方がうまく書ければい
39 いなというような印象を持った。
- 40 ○ 従来、環境問題はこの課題が見える化して頑張ったのだが、どう地域を活性化するか

1 と、まさにデベロップメントの目標の見える化というのはあまりやっていなかったと思
2 う。今回、そういう方面にも今のハードに関連して努力すればいいのではないか。

3 ○ 環境未来都市の成果を、やはり1回まとめる、可視化する必要があると思っている。
4 それは課題が可視化できたということと、それから地域資源をある程度掘り起こして可
5 視化できたということと、それからそれを結び付けてそれを動かす、課題を解決すると
6 いう How の部分、社会技術と言ってもいいのかもしれないが、その3をきちんと整理し
7 て、それぞれの11の環境未来都市について1回整理をするという、そういう一つの段
8 階が必要ではないかと思う。

9 ○ いわゆる社会的技術というのは見える化しにくいし、KPI も作りにくいですが、今回、S
10 DG s でそういうことが少し推進できれば非常に大きな成果になるだろうと思う。

11 ○ 何かSDG sを進めることの戦略性のようなことをもうちょっと打ち出してもいいか
12 なと思うが、例えば都市輸出を今後やるときに、やはりこのSDG sにのっとって
13 かないとなかなか世界が聞いてくれないとか、あるいは、それを総合化しているところ
14 をうまく見せることが、やはり各都市の今後の発展、その都市というのは、都市だけは
15 でなく、そこにいる産業なども全部含めてなのでだが、まずその発展に結び付かないと
16 か、何か戦略性のようなものが、あるいはなぜこれをやることにすごくメリットがある
17 のかということをもうちょっと入れてもいいかと思う。

18 19 (2) II・IIIについての議論

20
21 ○ これは共通したポイントで、特に国際協力、国際連携、また海外への発信というキー
22 ワードがずっとあるわけだが、このSDG sとの特徴と利点、ベネフィットというか、
23 いいところは、SDG sは世界共通の言語になっている点である。SDG sということ
24 によって、それぞれの立場で取組は違うが、それに取組もうとする考え方そのものは、
25 国連で全世界が共有した概念なので、出発点が一個一個説明しなくても、SDG sに取り
26 組んでいるそのものが共通理解として、国際協力、国際連携、海外への発信などを展
27 開していく上で利点があるという点を認識して整理するといいいのではないか。

28 ○ 4ページ最後のパラグラフがあるが、1行目に「地球規模で将来を見据えた世界共通
29 の」、この辺に入っているわけだが、共通の枠組みだ、共通言語だということをもっと
30 ちゃんと書き込んだ方がいい。

31 ○ 先ほどちょっと戦略性と言いたかったのは、若干何か自分たちの都市を良くすること
32 を中心に書いているような気がしたのだが、そうではなく、海外の都市に貢献しよう、
33 特に都市輸出のようなことをやっというくと、例えば、日本で貧困問題というの
34 はそれほど海外に比べれば大きくないので、そのことは目をつぶって日本ではできるが、
35 海外行った途端にそれはできなくなる。だから、都市輸出等をするときには、実は、自分
36 たちが得意なところ以外の部分についても十分配慮しないと、場合によっては受け入れ
37 てもらえないということだと思う。

38 ○ SDG sはどちらかというと、開発途上国をこれから良くするためにどういうことを
39 すべきかとまとめたものだと、実は理解している。開発途上国と先進国とはやはりちょ
40 っとスタンスがそここのところは違うのではないかと思うが、特に今後日本が開発途上国

- 1 に入っていくときに重要な視点というのはまさにここにある。だから、日本で強いところ
2 をももちろん伸ばすのは重要だが、それに加えてリフレクトして、それ以外の部分につ
3 いてもしっかりと考えるという、そういう意味での戦略性を何かどこかに入れるとよか
4 ったかなと思う。
- 5 ○ 補足すると、いま発展途上国を中心と発言があったが、MDGs はまさにそうだった。だ
6 から、SDGs はそれで十分うまくいかなかったから発展途上国も先進国も全部含めて
7 やろうということを、委員方が補足してくれた。
- 8 ○ 一方で、先進国だけうまくやっても駄目である。国際貢献の主流化ということは、今、
9 委員が発言したとおりで、非常に大きな豊かな先進国が、Sustainable Development と
10 いうことで、発展途上国も一緒にハッピーになる。そういうことで、後半の委員の話も
11 全く賛成。
- 12 ○ 全くそのとおりだと思う。補足というか、追加でちょっと考えると、この3ページの
13 ところの「環境未来都市」で成果があったというのを、やはりSDGs の観点から整理
14 をするのがいいと思う。例えば、目標の12は既に達成したとか、この「環境未来都市」
15 構想によってかなりそこに近づいているとか、よく信号の赤・青・黄色で表したりする
16 が、すごく青が多いというような言い方をしてもいいと思う。
- 17 ○ ただ、もう一つは、先ほどの話のフォローアップにもなるかもしれないが、実はそこ
18 だけではなかったというのが一つのポイントだと思う。環境面はすごく良くなったが、
19 同時に別のところは、当然そこは課題になっていなかったから見ていなかったというこ
20 ともあると思う。例えば、先ほど話にあったような雇用との関係、そこは切り離して
21 考えていたのでタッチされていなかったと。けれども、このSDGs を使うことのメリ
22 ットというのは、そこも含めて今後やっていきたいと思いますというように。だから青のところ
23 をいっぱい増やしていきたいと思いますというように示すと「ああ、こういうことをや
24 らないといけないのかな」というのが視覚的にも分かりやすくなっていいのではないかと
25 思う。
- 26 ○ テーマは、2008年の環境モデル都市は低炭素、それで2011年の未来都市は環
27 境と超高齢化。多分、今度はそれに加えて、人口減少やスマートシュリンク、そういう
28 新たな課題が出てくる。こちらも幅広い。
- 29 ○ 人口減少の防止と、多分、人口の急増殖の抑制など、何かオリジナルのインジケーター
30 をこのゴールに入れるというのは非常に大事だと思うが、今の話にあった日本の活動を
31 海外にナレッジで展開するためにグローバルスタンダード化として非常にSDGs
32 が使えると。そうすると、例えば、これは17のゴールで見ると、結構日本側はエネル
33 ギー特別会計など使って、13番の気候変動にバツとお金を出すというが、実はそれは
34 13番でお金を出すけれど、それはそれ以外の水の6番、3の健康などもやると。ただ、
35 それは別のパッケージがあって、今回の投資というのは13番ですと分かる。これは多
36 分、向こう側も非常に受け入れやすくなって、日本のヨーロッパ、特にヨーロッパだと
37 思うが、ヨーロッパとの相対的な優位性が非常に明確になる。
- 38 ○ 環境未来都市の成果の深掘りをしていくということは、われわれずっとやってきた環
39 境未来都市構想推進委員会委員としても希望である。最近よく、柏市と下川町の違いと
40 いうのをあちこちでよく言うのだが、やはり柏市はマーケットがあるので、そこで官民

- 1 連携の仕組みを作れば、そこが一つの新しいインフラなりができた。しかし、下川町に
2 になるとマーケットと言うか、活動を作っていないといけない。これはメカニズムが全
3 く違うのと、場合によってはステージが違うというような言い方をしているような気が
4 する。
- 5 ○ もともとモデル都市は3つの対象で、中小自治体から、地方中核自治体、それから大
6 都市ということで選んで、そのスピリッツは環境未来都市にも引き継がれてきたような
7 中で、その多様性のようなことでの深掘りを今回やれると、それがSDGsへの対応も
8 非常にバリエーションが見えてきていいような気がした。
- 9 ○ よく分かる。環境モデル都市も環境班来都市も、非常に小さな自治体、中規模、大
10 都市というような大枠の枠組みでやった。それで環境問題の場合は割合それで整理でき
11 が、いわゆる Sustainable Development と、経済活動がどうなるかというような問題は、
12 委員の発言のように、経済活動の基盤がなかったら全然設計もできないわけである。そ
13 ういう意味で、今回まさに Sustainable Development であるから、そういう基盤となる
14 経済活動も踏まえながら、ぜひ各自治体が自分のゴールを作っていくのをわれわれが応
15 援する必要があるのではないか。これは一番小さい自治体などでやりにくいところでは
16 ないかと思う。よく色々な提案を見ていると、出口を見ない経済計画というのはよく見
17 られる。
- 18 ○ 5ページの、「自治体としてSDGs推進に取り組む意義」の中で、(3)のところは
19 とても重要だと思う。「経済・社会・環境政策の統合」というところが、やはり出口とし
20 ての経済の効果がないと地域の経済の活性化につながらないところを、各自治体
21 がそれぞれこのSDGsという考え方を基に、ある意味でベースの考え方を作ってほし
22 いと思う。
- 23 ○ だから、このSDGsそのものをここに、SDGsを作るのではなく、SDGsとい
24 う考え方の下に地域の政策を作っていただくということだと、ともかく説いていくこと
25 がとても重要で、目的ではなくて手法ですよということがとても重要だと思う。
- 26 ○ 実際に自治体がやる時には、既に「地方創生総合戦略」が2014年から出来上が
27 っていて、モデルも33選んでいる中で、自治体はだいたい地域の課題を見つけて、総合
28 的にやるということをして3年間、かなり訓練をしてきており、実践してきている。
- 29 ○ 実際、見え方としては地方創生の事業でよろしいですよということも、どこかで書き
30 込んでほしい。SDGsとして全部アウトプットするのではなく、考え方がベースにあ
31 れば、それは地方創生の実践で結構ですよというような、イコールなのだということをも
32 う少し書いてもらおうと、これが出たときに地方自治体は「また一から全然違うものを作
33 り出さなくちゃいけない」というような、気負い、肩の荷が重たいなということがなく、
34 今の考え方を、次のページも書いているが、地域課題と全国課題と世界規模が実は全部
35 つながっていて、地域課題が関係すると、全国的にも世界的にも実はちゃんとできるの
36 だという考え方でいいのだということを、もう少し背中を押していただきたい。
- 37 ○ 8ページについてだが、やはり政府がこれについて相当しっかりと、地方創生がそう
38 なのだが、ぜひ地域にやってもらいたいのだという明確な意志を、ぜひ出していただい
39 た上で、ここに書いているような環境整備というものは本当に重要だと思う。その中で、
40 ここに明確に「資金面での支援」と書いてもらったことについては、全国の自治体の方

- 1 もほっと胸をなで下ろして、少し取組についても積極的に動ける状況がそろうのではないかなと思うので、この部分をもう少し具体的に膨らませていただけるような戦略を取
2 っていたらと思う。
- 3
- 4 ○ 今の発言の後半のところから言うと、まさに政府にどういう形でこれを支援して推進
5 してもらうか、きちんとコンセプトを取りまとめるのがこの委員会のミッションの大き
6 なる目的の一つであり、それは必ずやりたいと思う。
- 7 ○ それから、8ページの「資金面」だが、これだけ見ると国の金だけ出せというよう
8 が、これは官民の資金も、色々有効活用する制度の整備などと、そんなふうを書くべき
9 だと思う。
- 10 ○ 前半の話で、地方創生総合戦略で相当自治体は勉強したということで、そのとおり
11 あり、もちろんこれは他方で自分のところの政策目標というのは自分の言葉で書いても
12 らうわけだが、その際に、「SDG s」という世界共通の言葉を踏まえながら書いた方が
13 国際的には分かりやすい
- 14 ○ 今までの議論を聞いていて、具体的にどういうふうにした方がいいかという文章の
15 提案なのだが、一つは、1ポツのところでは環境未来都市のある程度、成果をきちんと落
16 とすべきだと、私もそういうふうで発言して、多分それがベースだと思うが、先ほどの
17 話を聞いていると、他方で何が残っているかということも多少言った方がいいのかなと
18 思う。つまり、ある程度蓄積はきちんとあるのだけれど、SDG sが出てくることによ
19 って実はこういう新しい課題や可能性も示唆されているので、そういうことの可能性も
20 考えたらどうですかと、8割、評価でいいと思うのですが、2割、課題ぐらいいはあった
21 方がいいのではないかな。
- 22 ○ 雇用という話も具体的なテーマであったし、あるいは、先ほどから実際どうやってや
23 るかというHowの話もあったが、17のものを見てみると多分パートナーシップという
24 ものと、例えば「つくる責任 つかう責任」などというのは多分Howに関わってきて、
25 恐らくステークホルダーとネットワークしましょうと、それではそれでいいのだが、多
26 分「つかう責任」のようところで、消費者というものをどうやってうまく使っていく
27 のか。このガバナンスの構造の中で、意外と消費者というのは力が強いところがあるの
28 で、そういうところはまだ色々な工夫の余地があるのだと思う。そうすると、テーマの
29 反映と手法のところ、けれども、こういう新しいある種のフロンティアも残っている
30 のですよということも書いていただいた方がいいのではないかな。
- 31 ○ それから、大きな2ポツの5ページのところで言うと、恐らくこの5ページの「例」
32 の(5)のところ、要するに「国内外の自治体や民間企業との連携を含めたグローバル
33 パートナーシップ」と一言で言っているが、若干ここの書き方を変えた方がいいのでは
34 ないかな。多分、国内でどういうパートナーシップを作っているかということも含めて、
35 ある種の国際的な普遍的な用語であるSDG sでちゃんと翻訳して示すことによって、
36 むしろグローバル展開、これはパートナーシップがあるかもしれないが、商売もあるか
37 もしれないので、何かそういうときに日本のやってきた経験というのがきちんと理解可
38 能な形で提示できると、それが場合によってはビジネスにもつながるといようなロジ
39 ックで、少し(5)のところは丁寧に書き換えた方が今のニュアンスが伝わるのではな
40 いか。

- 1 ○ 最初に言ったことの繰り返しだが、6ページで2-2、2-3で、自治体が何をやるべきかというところで、例えば2-3の(2)で「執行体制整備(人材、予算、権限)」というのがあるが、多分これは大事だが、一番基礎は、自治体が地域課題のまさに情報を発掘して、整理して提示をするという地域課題の可視化という作業があつて、これは「0」のところでは書かれているが、多分このためにやるべき作業というものもあるのだと思う。それは多分、2-2なり2-3でちゃんと情報を整理して、きちんと地域課題を明示化する機能というのは挙げておいた方がいいのではないか。
- 2
3
4
5
6
7
- 8 ○ 今までであれば行政の主たる仕事は人と金と権限でやる話だったが、情報を提供し、それこそオープンデータのような話ではないが、色々なステークホルダーがむしろ自主的に勝手に解決するということを促すというのが、お金もないご時世なのでやはり大事になってくる。そういう意味で言うと、情報という資源を自治体がどう使うのかというのは結構大事なので、そこはちょっと強調した方がいいのではないか。
- 9
10
11
12
- 13 ○ 最初の環境未来都市の、この確かに「今の問題は全部終わったんだからもうやらなくていい」というようなことで終わらないように、ここまで進んで、さらに新しい時代で何をやるべきかと、SDGsのグローバルを含めて受けたと、そういうふうにするべき宿題を書くべき。
- 14
15
16
- 17 ○ それから、パートナーシップの件だが、単に姉妹都市協定などというレベルを超えて、きちんとビジネスとして踏み込んだことを、実際に横浜市や北九州市は随分やっている。そのような形までグローバルなパートナーシップを進めるべきである。どちらかという
- 18
19
20
21
- 例である。